

地域県土警察常任委員会資料

(令和8年1月21日)

〔 件 名 〕

- 令和7年度県政モニタリング事業の実施結果について
【県民課】 . . . 2 ページ
- 令和7年度鳥取県文化功労賞・文化奨励賞受賞者の決定について
【文化政策課】 . . . 3 ページ
- 鳥取県立美術館の運営状況等について
【美術館】 . . . 4 ページ
- 鳥取県人権尊重の社会づくり条例の施行について
【人権・同和対策課】 . . . 6 ページ
- 島根県東部を震源とする地震に係る県内文化財の被害について
【文化財課】 . . . 7 ページ
- 国史跡の新規指定について
【とっとり弥生の王国推進課】 . . . 8 ページ

地域社会振興部

令和7年度県政モニタリング事業の実施結果について

令和8年1月21日
県 民 課

多様化する県民の意見を県政に反映させるため、特定の県政テーマについて広聴活動の一環として県政モニターの皆様と意見交換を実施しましたので、その概要を報告します。

1 事業概要

(1) 対象テーマ及び実施体制

テ ー マ	「第4次鳥取県健康づくり文化創造プランの実現に向けた健康増進策の展開について」～健康寿命の延伸に向けた地域資源（温泉等）を活用した健康づくり事業の進め方～
県政モニター	4名（公募）
コーディネーター	国立大学法人鳥取大学 地域学部教授 多田憲一郎（ただ・けんいちろう）氏
テーマ関係課	福祉保健部健康医療局健康政策課

(2) 活動概要

- ・ 7月～11月 モニター会議での意見交換（3回実施）
- ・ 12月23日 県（県民課長）への提案書提出

2 提案の概要

(1) モニターが整理した課題

- ①プランの実施、取組の推進について、担当課をはじめ市町村等も各種事業・イベント等に熱心に取り組んでいる。しかし、取組に関する情報発信等が効果的でなく、行政の取組が県民には単発、一過性といった印象が強く、県民の関心・認知度の向上や県民の自発的、継続的な取組に繋がっていない。
- ②プランに関する事業・取組について、運動、ウォーキングなど健康維持の生活習慣も全国平均を下回るものが多く、健康習慣として定着していない。地域資源（温泉等）を活用することで、楽しみやワクワク感の持てる、県民の自発性・持続性に繋げるための仕掛けが必要である。
- ③「歯（の健康）」、「フレイル（予防）」は県民への浸透、定着が見られるが、正しい知識や方法を十分に理解している県民は少ない。取組の効果を高めるための、より一層の正しい知識の普及・PRが必要である。

(2) 課題に対する提案（主なもの）

- ①楽しみ、ワクワク感、効果的な情報発信で、持続的・自発的「健康づくり文化」
 - ・ 真の「健康づくり文化」となるよう、地域資源（温泉等）を活用したエンタメ性のある「鳥取式」健康づくりを創出する。また健康習慣の定着に繋げるため、参加することにインセンティブのある仕組みを加えて、県民自身の「自発性」、「持続性」のある取組とする。
 - ・ 「健康づくり」を文化として定着させ、県内外に広く浸透させるため、イベント等において「楽しみ」や「ワクワク感」が感じられ、訴求力の高いキャラクター等により継続的で「魅力ある」情報発信を行う。
- ②地域資源（温泉、自転車道、イベント等）を活用した健康づくり
 - ・ 行政において、健康づくりに活かせる地域資源情報を幅広く収集してデータベース化し、県民や健康に関心のある来県者に情報を提供できる環境整備を進める。
 - ・ 老朽化した温泉施設等を健康づくりに活用するため、行政、民間など多様な活動主体が連携して地域資源の魅力発見やブラッシュアップを行い、情報発信を支援して「健康づくり」ツールとして機能させる。
 - ・ 県が行う多種多様なイベントに、参加のインセンティブや期待感を高める仕掛けを加えて情報発信を強化する。またイベント参加者の感想・声を集めて、次回以降の取組にフィードバックする仕組み（PDCAサイクル）を構築することで健康づくりの取組を定着させる。
- ③「歯」・「フレイル」をはじめとしたプランの普及浸透
 - ・ プランの中で一定以上の成果、認知度が出ている8020運動やフレイル啓発についても、県民が自発的に取り組みたいと思えるよう一層の情報発信を行う。
 - ・ 取組の普及、広報効果を高めるため、集客施設やイベントなどあらゆる機会を捉えて県民の関心や取組向上に繋げることも必要である。

3 今後の予定

令和8年度当初予算での反映状況などを、モニターの皆様にフィードバックしていく。



提案書の提出（R7.12.23）

令和7年度鳥取県文化功労賞・文化奨励賞受賞者の決定について

令和8年1月21日

文化政策課

「鳥取県文化功労賞」は、優れた文化芸術活動により広く文化の振興に功績のあった者の功労を讃え、県民文化の向上発展に資することとして平成15年度に創設した表彰制度であり、「鳥取県文化奨励賞」は、文化芸術の各分野において優れた活動を行った将来性のある新人（概ね40歳以下）を表彰し、挑戦やステップアップを後押しすることを目的として令和4年度に創設した制度です。

今年度の各表彰の受賞者が以下のとおり決定しましたので、報告します。

1 鳥取県文化功労賞受賞者（五十音順、敬称略）

氏名等	選考理由
<small>こなだ いっき</small> 小灘 一紀 (81歳) 洋画 県外在住 (境港市出身)	<ul style="list-style-type: none"> ・日展等で数々の賞を受賞後、記紀神話をモチーフに日本文化の根源や日本人の伝統的な精神性を描き出す作品制作に取り組み、確かな技術に裏打ちされた高い芸術性によって平成29年に日展内閣総理大臣賞、令和4年に日本芸術院賞受賞の栄に輝いた。 ・県外に拠点を置きつつ、故郷である鳥取県においても数多くの神話絵画企画展や講演会等を開催するほか、公共施設への作品寄贈を通じて多くの県民に鑑賞機会を提供するなど、文化芸術の普及に貢献した。 ・郷里において絵画教室を主宰し、県内外で活躍する画家を育成するなど、地域における後進育成や洋画界の発展に尽力した。
フナイ タケヒコ (83歳) 現代美術・絵画 鳥取市	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和43年に県内の若手作家と共に結成した前衛芸術家グループ「スペース・プラン」の中心的存在として意欲的な作品を相次ぎ発表し、そのたびに新しい表現方法で取り組むなど、時代に先駆ける表現の世界を切り開いた。 ・抽象表現の可能性を探究し、県や鳥取市の美術展覧会への出品や個展開催など精力的な活動を行い、地域の現代美術の発展を牽引した。 ・近年も詩人漆原正雄氏とコラボレーションした詩画集を発行するなど新たな表現への挑戦を続け、文化芸術の振興に広く貢献した。

2 鳥取県文化奨励賞受賞者（五十音順、敬称略）

氏名等	選考理由
<small>もりかわ みちひろ</small> 森川 道弘 (42歳) 音楽・舞踊 米子市	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の古典芸能である「雅楽」の普及を目指す「鳳鳴雅楽会」を創設して、山陰の地に雅楽の活動拠点を築き上げ、多様な活動を通して雅楽の魅力を発信し続けている。全国各地の公演に加えて海外へも活動を広げているほか、舞が伴う「舞楽」に取り組むなど、日本の伝統音楽の分野において新生面を切り拓いている。 ・県内各地において演奏会や奉納を精力的に行い、普段触れる機会の少ない「雅楽」を鑑賞する機会を県民に広く提供している。また、学校での公演や雅楽の楽器体験等を通じて若年層へ古典の魅力を伝えるなど、伝統芸能の継承や地域文化の発展に貢献している。
<small>やまもと たかひろ</small> 山本 隆博 (41歳) 絵画 米子市	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの作家が切磋琢磨する写実絵画の世界の中で、古写真をモチーフとした独自の表現を確立し、日本最大級の現代アートコレクションである「高橋龍太郎コレクション」に収蔵されるなど、精緻な写実表現によるリアリズムを超越した新規性が国内外で高く評価されている。 ・県中部に設けたアトリエにおいて精力的に創作活動を展開し、個展やグループ展等を通じて県民に鑑賞機会を提供している。また、国内第一線の写実画家や県内作家等と交流を重ね、創作への新たな刺激を与えると共に技法や道具についてアドバイスをを行うなど、県内美術文化の向上を牽引する存在として期待されている。

3 表彰式等

- ・表彰式の日程等については関係者調整中
- ・県立美術館県民ギャラリーにおいて文化功労賞受賞者の功績を紹介する記念展を開催（会期：2/27～3/4）

4 過去の受賞者数

- (1) 文化功労賞：57名（平成15年度～令和6年度）
- (2) 文化奨励賞：6名（令和4年度～6年度）

鳥取県立美術館の運営状況等について

令和8年1月21日
美 術 館

昨年3月30日の開館後、半年を待たず利用者20万人を達成(9月12日)し、今年度末には30万人を超える見込みです。

賛否両論で注目を集めたアンディ・ウォーホルの作品《ブリロ・ボックス》など、従来の常識や価値観にとらわれない自由な発想に触れられる現代アート作品をはじめ、国内外の優れた作品の展示等により、引き続き多彩で良質な美術に親しんでいただく機会の創出に取り組んでいきます。

また、「アートを通じた学び」の場の提供や誰もが鑑賞を楽しめる環境づくりを進めており、特色のひとつである「ミュージアム・スタート・バス」プログラムは110校(予定)が来館しています。

1 これまでの利用者数等

期 間	利用者数	うち、企画展・コレクション展観覧者数
令和7年3月30日～ 令和8年1月12日	284,561人	142,591人 ※企画展・コレクション展 102,959人 ※コレクション展のみ 39,632人

- ・開館記念展アート・オブ・ザ・リアル 50,810人(3月30日～6月15日)
- ・水木しげるの妖怪 百鬼夜行展 34,920人(7月19日～8月31日)
- ・The 花鳥画－日本美術といきものたち－ 17,229人(10月11日～11月24日)

2 今後の主な企画展・コレクション展

企画展 CONNEXIONS | コネクションズ－接続するアーティストたち (2月7日～3月22日 企画展示室)

[概要] 「未来をつくる美術館」として開館した当館は、新しい価値を育み、文化とともに育てていく場として、同時代の表現を紹介することにも力を注いでいる。本展では、作品を通じて文化や社会の断絶を越え、異なる領域を架橋する国内外のアーティスト7組を招聘する。

コレクション展 現代の彫刻—新しい表現を創造するアーティストたち 01/近世・近代の陶芸 (開催中～2月11日まで コレクションギャラリー3)

[概要] 当館が所蔵する現代美術の立体作品を2期に渡って展観する「現代の彫刻」。

第1期では、1954年以降隔年で開催されてきた日本国際美術展と現代日本美術展を舞台として作品を発表した彫刻家を軸としながら、全国的な野外彫刻の展開や県内の前衛的な美術運動など、アンディ・ウォーホル《ブリロ・ボックス》を含め、同時代の潮流を反映する作品を紹介する。

コレクション展 垣田堅二郎コレクション②/写真コレクションより：かたち (開催中～2月11日まで コレクションギャラリー4)

[概要] 当館の版画部門の主要な一角を占める「垣田堅二郎コレクション」展の第2期。近代から現代にいたる版画表現の可能性を紹介しながら、垣田コレクションの質の高さや多様性を通覧する機会を提供する。

[関連企画] 1月24日・25日 ギャラリートーク

コレクション展 新年だヨ！全牛集合(開催中～2月11日まで コレクションギャラリー5)

[概要] 令和8年の午年を記念して、馬をモチーフとした美術を展示します。躍動感あふれる馬の絵を得意とした橋本秀峰(1796-1883)の「牛馬図屏風」をはじめ、時代や様式を超えた多彩な馬の表現を紹介する。

鳥取県立博物館と共催で開催する企画展 ※会場は鳥取県立博物館

江戸絵画からブリロ・ボックスまで(2月28日～3月22日 鳥取県立博物館特別展示室)

[概要] 県東部で美術作品鑑賞機会の充実を図るため、県立博物館を会場に、選りすぐった鳥取県の美術コレクションによる企画展を開催する。江戸時代の優れた画家や近代以降の民藝運動に関係した様々な工芸家の作品、鳥取県を代表する前田寛治や伊谷賢蔵、辻晋堂、塩谷定好、植田正治などの作品のほか、近年収集したアンディ・ウォーホルの《ブリロ・ボックス》、ジョルジュ・ルオーや日本の現代美術をリードする森村泰昌などの作品も紹介し、拡大していく鳥取県の美術コレクションの魅力に触れることのできる機会を提供する。

[関連企画] 3月7日 ギャラリートーク 2月28日、3月14日、21日 学芸員とめぐるギャラリーツアー

2 アート・ラーニング・ラボ（A.L.L. 通称オール）の取組例

県立美術館では、子どもたちをはじめすべての人に、アートを身近に感じて楽しんでもらうことを目指し、「アートを通じた学び」の研究室「アート・ラーニング・ラボ（A.L.L.）」を設置し、様々なプログラムを提供している。



（１）ミュージアム・スタート・バス（小学４年生バス招待事業）

県内すべての小学校・義務教育学校・特別支援学校小学部の４年生を招待し、学芸課スタッフやボランティアなどファシリテーターが案内役となり対話をしながら作品鑑賞を行う。この活動では、子どもたちが本物に触れ、自分の目でしっかり見て、発見したことや感じたことを素直に言葉にすることで、多様な考えに気づき、互いに認め合う心を育む等の効果が期待されている。

[令和７年度の取組状況] ※R8.1.12 現在

	来館済	来館予定	合計(予定)
児童数	3,889 人	442 人	4,331 人
学校数	101 校	9 校	110 校

[令和８年度の申込状況]

申込み 116 校（うち、前期 64 校・後期 52 校）



小松宏誠展でお気に入りの作品をスケッチする小学生



ファシリテーター研修を重ねたボランティアによる対話鑑賞

（２）朝鑑賞シンポジウム

今年３回目となる鳥取県発の朝鑑賞シンポジウムでは、週に１回、朝 10 分の作品鑑賞を行う「朝鑑賞」が学校に何をもたらし、児童・生徒や教師にどのような変化を生むのかについて、理論と実践例を紹介した。今後、記録動画を公開する予定。

○日時等 令和８年１月 11 日（日）午前 10 時～午後 4 時 30 分、鳥取県立美術館ホール

○内 容 実践発表（７件）、ワークショップ（４名のファシリテーションを体験）、パネルディスカッション（武蔵野美術大学 三澤一実教授ほか４名のパネリスト）

（３）休館日を活用した特別鑑賞会の試行

美術館にアクセスしづらい方々を対象とした特別鑑賞会試行の状況や、中学３年生のちいわか総選挙で「誰もが安心して楽しめる美術館」の得票率が高かった(46.1%)ことを踏まえ、今後、障がいがある方のための特別鑑賞会の定期実施や、視覚以外で鑑賞する触図などの導入・充実を進めていく。

○教育支援センター「ハートフルスペース」利用者（６／２） 33 人

○障がい者施設利用者（９／22） 29 人

○高齢者等（11／17） 8 人

秋の企画展「The 花鳥画」では、高齢者向けに、展示室内により多くの椅子を設けたり、細かい筆遣いが見えるよう単眼鏡（片目で覗く小型の望遠鏡）の貸出も行った。



（４）アウトリーチ事業

美術館の学芸スタッフが学校や地域の様々な施設に出かけて、ワークショップやレクチャーなどを行っている。当面予定しているアウトリーチ事業は次のとおり。

○２月４日（水）鳥取市立末恒小学校３年生 19 名 ワークショップ

○２月 19 日（水）県立鳥取豊学校小学部 6 名 対話鑑賞（作品パネル使用）等

3 鳥取県立美術館開館 1 周年記念イベント「どんどこ！巨大紙相撲 とっとりけんび場所」(3 月 29 日(予定))

鳥取県立美術館の開館 1 周年を記念し、好評を博した開館 1 年前カウントダウンイベントの巨大紙相撲（令和 6 年 3 月）を再開催する。

○裏方や谷町向け説明会 ○巡業(力士制作ワークショップ) ○本場所(チーム対抗巨大紙相撲)

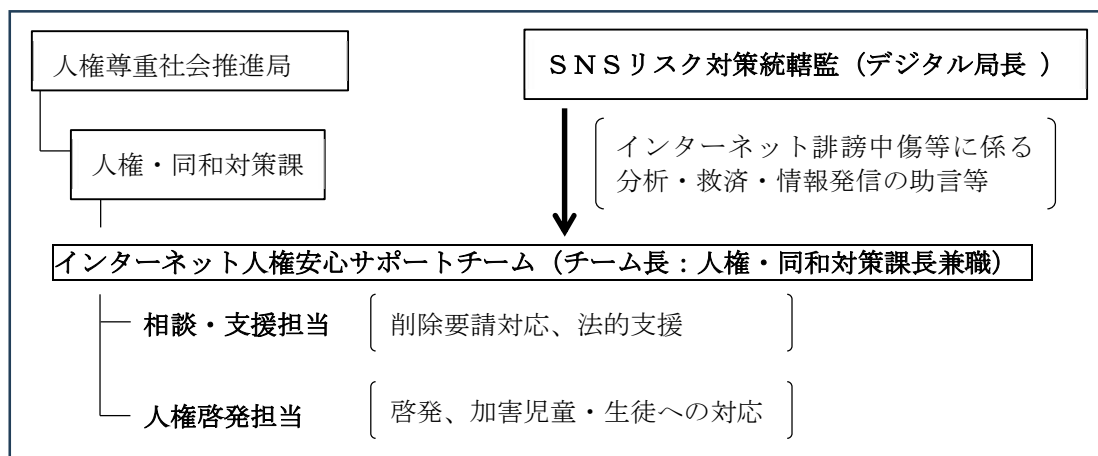
※呼出や行司、実況解説、谷町、部屋制度を通して多くの人々が関わる参加型のアート

鳥取県人権尊重の社会づくり条例の施行について

令和8年1月21日
人権・同和対策課

令和8年1月25日から「人権尊重の社会づくり条例」を施行するに当たり、「インターネット人権安心サポートチーム」を設置し、条例施行に向けて体制を整備します。

1 インターネット人権安心サポートチームの設置（17名、専任2名（増員））



<相談・支援担当>

人権・同和対策課、中部県民福祉局中部振興課、西部県民福祉局西部振興課、政策法務課

<人権啓発担当>

人権・同和対策課、教育学術課、家庭支援課、生徒支援・教育相談センター、社会教育課、人権教育課

2 「改正人権尊重の社会づくり条例」運用方針

《抜粋》

- ・人権相談窓口におけるインターネット上の侵害相談事案が対象
- ・削除要請、命令にあたり協議会の意見を聴取して、客観性担保
- ・命令及び過料を科す前には、弁明の機会を付与
- ・条例の運用手続の透明化を図るため、前年度の実施状況を公表
- ・発信者が未成年の場合、青少年健全育成の観点から、学校等と連携して対応

3 県民への周知・リテラシー啓発

- ・広報媒体（インターネット、新聞、テレビ、広報誌等）を活用して県民に広く周知
- ・中高生に対してチラシ配布等を行い、ネットリテラシー啓発を強化

4 有識者の参画による透明性の確保

- ・条例の推進に際し、人権尊重の社会づくり協議会委員等も参画

島根県東部を震源とする地震に係る県内文化財の被害について

令和8年1月21日
文 化 財 課

令和8年1月6日に発生した島根県東部を震源とする地震によって、県内の文化財に下記のとおり被害が確認されました。他の文化財についても被害が生じていないか引き続き確認を続けるとともに、被害が生じた文化財に対しては所有者と修復方法を相談しながら県補助金等を交付して復旧を支援します。

記

1 これまでに地震による被害が確認された文化財

国指定文化財	1件	史跡 米子城跡（米子市）
県指定文化財	5件	保護文化財 印賀宝篋印塔（日南町）、名勝 矢田貝氏庭園（伯耆町）等
市町村指定文化財	2件	境港市指定史跡 景山家墓地
		日吉津村指定有形民俗文化財 金毘羅大権現常夜燈（下口）
国登録有形文化財	1件	面谷家住宅店舗兼主屋ほか（境港市）

2 主な被害状況

○国史跡 米子城跡

水手御門石垣の上部の一石が剥落した。地震の影響で石垣が崩れやすくなっている恐れもあることから、当面の間、登城路は全て閉鎖し城内への入場を禁止している。余震の状況をみながら城跡全体の被害の有無を確認し、経過観察を続けるとともに今後の対策を検討する。

○県指定保護文化財 印賀宝篋印塔

塔上半部（相輪、笠、塔身）が崩落し、基礎がズレたほか、石塔の覆屋の一部が破損した。

○県指定名勝 矢田貝氏庭園

石灯籠の宝珠落下・一段目笠石の欠けが生じたほか、露地門の脚が破損し、露地門近くの石灯籠・道標が転倒した。

○日吉津村指定有形民俗文化財 金毘羅大権現常夜燈（下口）

常夜燈の宝珠が落下した（宝珠の大きな破損なし）。



（上）印賀宝篋印塔崩落状況

（左）米子城跡石垣剥落状況

（中央）矢田貝氏庭園石灯籠転倒状況

国史跡の新規指定について

令和8年1月21日

とっとり弥生の王国推進課

令和7年12月19日（金）に開催された国の文化審議会（文部科学大臣の諮問機関、会長 ^{しまたにひろゆき} 島谷弘幸 独立行政法人国立文化財機構理事長）において、国史跡の新規指定について文部科学大臣に答申され、下記のとおり、「因幡国山陰道跡」（鳥取市）及び「羽衣石城跡 附 十万寺城跡 番城城跡」（湯梨浜町）が史跡指定されることが決まりましたので報告します。

記

1 文化財の名称

- (1) ^{いなばのくにさんいんどうあと} 因幡国山陰道跡（鳥取市青谷町）
- (2) ^{う え し じょうあと} 羽衣石城跡 ^{つけたり} 附 ^{じゅうまん じ じょうあと} 十万寺城跡 ^{ばんじろじょうあと} 番城城跡（東伯郡湯梨浜町）

2 文化財の特徴と評価

(1) 因幡国山陰道跡

- ・所在の場所 鳥取市青谷町露谷字漆ヶ坪35番1外 32筆等
- ・対象地域の面積 14,527.48㎡
- ・所有関係の概要 市有地…1,560.06㎡、民有地…12,967.42㎡

【史跡としての価値】

- ・今回指定になるのは、古代国家が全国に張り巡らせた七道駅路のひとつ「山陰道」の一部で、様々な地理情報と分布調査、発掘調査成果に基づき経路が推定できる青谷平野周辺の4遺跡。
- ・平野部では、盛土、路肩への杭の打設や斜面への石の貼り付けなど様々な工法を用いたほか、^{じょうり せい じ わり} 条里制地割との一体的敷設、柳並木の検出など、官道の沿線景観の一端が明らかになった。
- ・山間部では、緩傾斜部分での切土や盛土を伴う大規模な土木工事による直線的な敷設、急傾斜地でのつづら折りの敷設が明らかになった。
- ・古代官道において初めてつづら折りの道路が確認された事例として、山間部における古代官道の路線復元を行う上でも重要な成果であり、古代の土木技術及び交通の実態を知る上で重要である。



古代山陰道推定ルートと史跡指定範囲

(2) 羽衣石城跡 附 十万寺城跡 番城城跡（東伯郡湯梨浜町）

- ・所在の場所 湯梨浜町大字羽衣石字研石場346番外 52筆等
- ・対象地域の面積 730, 546. 55㎡
- ・所有関係の概要 町有地…395, 365. 55㎡、民有地…335, 181. 00㎡

【史跡としての価値】

- ・羽衣石城は、戦国期東伯耆を中心に活躍した国人領主、南条氏が拠点とした山城跡で、伯耆国東部一帯を見渡せる位置にあり、東伯耆の拠点城郭として機能した。
- ・山頂部の曲輪群を中心に独立した3つの曲輪群が放射状に展開する山城で、発掘調査により石積や集石遺構が検出され、16世紀後半のものと推定される土器・陶磁器片が出土した。
- ・羽衣石城跡の南には、山上に大規模な土塁や堀を伴った十万寺城、北には番城城の出城を築き、戦闘に応じた築城技術を展開している。
- ・これらの山城跡群は、天正8（1580）年から本格化する毛利氏・織田（羽柴）氏の攻防における最前線の城であり、戦国期における山陰地方の政治状況の変化を知る上で重要である。



東郷池からみた羽衣石城跡（中央）および十万寺城跡（右）、番城城跡（左）

3 国で答申が行われる史跡の概要

今回、国で答申が行われた史跡の概要 ※特別史跡の数を含む

現在の史跡指定件数	今回の答申件数	合計件数
1, 917件	6件	1, 923件

4 鳥取県の状況

鳥取県の国・県指定文化財総数（今回指定後・未告示含む）

国指定・選定文化財	県指定・選定文化財	国登録文化財
(38) 131件	(19) 339件	266件

() 内は史跡の数
※特別史跡 1件、
名勝及び史跡 1件 含む